

令和 8 年度 第 1 回恵那市総合計画推進市民委員会 会議録

日時：令和 8 年 9 月 2 日（水） 午前 10 時 30 分～

場所：恵那市役所 災害対策室 A・B

1 開 会

2. 委嘱書の交付

3. 会長・副会長の選任

4. 副市長あいさつ

5. 総合計画推進市民委員会の役割について 資料 No.1

6. 議 事

（1）総合計画の進行管理について 資料 No.2 資料 No.3 資料 No.4

（2）総合戦略の進行管理について 資料 No.5

（3）地方創生交付金事業の効果検証について 資料 No.6 資料 No.7

7. その他

8. 閉 会

1. 開 会

■進行

定刻なのでこれより開会する。私は本日の進行の企画課長の瀧瀬です。

名簿 10 番平林委員は所用のため欠席。

本日の会議は恵那市附属機関等の会議の公開に関する要綱に基づき原則公開とし、会議録も後日公表する。

2. 委嘱書の交付

■進行

委員の委嘱書は時間の関係で机上に配布している。

欠席の委員を含め 12 名に就任いただいている。

3. 会長・副会長の選任

■進行

恵那市総合計画推進市民委員会設置要綱第 5 条により、会長は委員の互選、副会長は会長が指名することとなっている。会長について意見はあるか。

■委員

事務局一任でどうか。

■進行

事務局一任との案が出たが、良いか。

[「異議なし」の声あり]

■進行

会長職には中部大学の服部様を推薦したいが、良いか。

[拍手多数]

■進行

副会長は恵那市総合計画推進市民委員会設置要綱第5条第2項により会長が指名することとなっている。服部会長から指名いただく。

■会長

名簿10番平林さんをお願いしたいが、良いか。

[「異議なし」の声あり]

■進行

皆様から承認いただいたので平林様にお願いする。本日は欠席。

会長から挨拶をいただく。

■会長

この会議は総合計画推進のための市民委員会で、市の最上位の計画である総合計画が進捗しているかを市民の目で自由闊達に意見を述べるもの。皆様からの意見が全てなので忌憚なく率直に意見を頂きたい。円滑な議事進行に努めるのでよろしくお願いします。

今回は、これまでの総合計画のまとめとなる。これまでの総合計画を振り返り新しい総合計画に繋げる締めめの会議になる。重要な会議である。

4. 副市長あいさつ

■進行

副市長から挨拶申し上げる。

■副市長

本日はありがとうございます。服部先生には引き続きよろしくお願いします。

昨年度は第3次総合計画を策定した。4月から新しい第3次総合計画がスタートした。この4年間の基本計画を着実に実施していく。協力をお願いします。

最近の話題では、TBSドラマのVIVANT。恵那市がロケ地となり、昨日の新聞に経済効果等の記事が載っていた。岩村町はかなり盛り上がり、県外からの来訪者も多い。明知鉄道ではVIVANTのラッピング列車を運行しており、撮影する「撮り鉄」もかなりいる。交流人口の拡大や恵那市を知ってもらう良い機会と捉え、恵那市の活力、魅力に繋がりたい。

本日は前計画の総括がメインとなる。忌憚のない意見を頂き、前計画の評価としたい。

5. 総合計画推進市民委員会の役割について

■進行

初めて委員になった方もあるので、総合計画推進市民委員会の役割を説明する。

〔 事務局から資料に基づき説明 〕

■進行

質疑はあるか。

〔 発言なし 〕

■進行

これからの進行は会長が務める。

6. 議 事

(1) 総合計画の進行管理について

(2) 総合戦略の進行管理について

■議長

議事 1、2 について事務局から説明をお願いします。

〔 事務局から資料に基づき説明 〕

■議長

質疑はあるか。

■委員

資料 2 の 15 ページ、人口減少について。こういう数字になるのは想定されたことだが、目標値から下回っているのは非常に残念。資料 9 で、高校生の市内事業所への就業率があるが、わりと低いと感じる。先日、武並小学校と東海理化とで防災教育を実施した。東海理化からは「学校のキャリア教育の授業の手伝いもできる」という話をいただいた。市内には事業所が多くあるので、連携すれば恵那にこんな企業があるということが分かると思う。小学校は自動車組立工場など市外へ社会見学に行くが、そこまで行かなくても、東海理化など市内にも自動車の部品を作っている事業所がある。身近なところにある地域資源を活用すると良いと思う。

■まちづくり企画部長

人口減少に歯止めが効かないのは全国的なこととして認識している。資料 9 にもあるように、未来キャンパスでは市内企業と一緒にプログラミング教室を開催するなど、恵那市の事業所の魅力も含めて発信している。去年からは小学生向けに「お仕事探検」という事業を実施している。市内にもこんな就職先があるということを紹介している。こういった取組をさらに充実させて若者の定着につなげられるように考えている。

■委員

イベントだけでなく、学校の授業としてできるといいと思う。

■まちづくり企画部長

教育委員会とも連携して話を進めたい。

■議長

資料 2 の例えば 20 ページ。指標 2 つ目は、5 年間通して見ると、達成率が中間の年は 100%なのに最後の年だけ 14%になっている。指標によって見方がかなり違ってくる。最後の年度の数字だけで評価するのはもったいない。指標の見方を次の総合計画の評価の際には精査する必要がある。積み上げて目標達成する指標と、年度ごとに個別の事情が出てくる指標を分けて評価を進めると、より数字をしっかりと見ることができる。次の総合計画では評価の在り方も含めて検討するといい。

■委員

資料 4、令和 8 年度の主要事業はすばらしい事業が並んでいる。しかし、防災という観点では、平時はこれでいいが、災害時の BCP も入れるべきではないか。熊本をはじめ、全国的にも災害が起こっているので他人事ではない。平時と災害時が両立するようにお願いしたい。

■総務部長

平時と非常時を両輪で構えなければいけない。日頃から有事への備えにしっかり取り組むよう、周知、啓発を進めたい。

■議長

他に何かあるか。これまでの総合計画の評価としては概ねこのようで良いか。

[発言なし]

■議長

総合的に評価して「全体として良かった」というように見るのではなく、分野ごとにしっかり見ていかないといけない。せっかく指標で評価しているので、指標ごとの分析が重要。達成できなかったが別の視点では良いとか、こういう事情があった、というような点については理解ができればいい。しかし、そういう説明がつかず、やはり問題だということではピックアップして次に繋げる必要がある。メリハリをつけて指標を見て政策評価に繋げることが、評価のあり方として必要。これも、評価の在り方を、市民委員会でも皆様の意見を聞いて検討していく必要がある。第3次総合計画の基本計画は4年なので、よりスピーディーに反映することが大切になる。

(3) 地方創生交付金事業の効果検証について

〔事務局から資料に基づき説明〕

■議長

質疑はあるか。

■委員

ジバスクラムの取組について。私も紅茶を出品しており、恵那峡サービスエリアで販売している。サービスエリアでは結構売れる。オンラインショップが閉鎖されているが、今後どうなるのか。

■商工観光部長

ジバスクラムのオンラインショップは、システムの関係で一時停止している。関係の皆さんにお知らせしながら進めていく。

■委員

7 ページ③④が未達成。大学生が来て地域を見るだけではなく、地域住民との共創が重要であり、その仕組みづくりが必要。大学の単位になるのかなど。

■まちづくり企画部長

包括連携協定を結んでいる大学がいくつかある。昨年度は、実践女子大学とZEN大学との連携事業を実施した。実践女子大は、WRCのイベントでボランティアとして協力いただいた。ZEN大学は、岩村町の教員住宅のリノベーションに企画段階から加わっていただいた。その後の利活用も一緒に考えながらやっている。今後、未来キャンパスの構想の目標達成に向けて、さらに他の大学とも連携を進めたいと考えている。

■農林部長

もう一つ事例を紹介する。昨年度から東海学院大学との連携事業を実施している。笠置町の栃久保では、高齢化で耕作放棄地が増えている。管理栄養士を目指している学生が、耕作放棄地を使って何かできないかということで、ヨモギを栽培して市内の菓子屋と一緒にクッキーを作って販売した。今後もそれを続けていきたい。

■委員

恵那市に住んでいると気付けない恵那市の良さがあると思うので、大学生などの「ヨソモノ」の意見がとても大事だと思う。会長の大学もあるので、ぜひお声がけしてほしい。

■議長

キャンパスが恵那市にもあるので活用いただきたい。地域に出て活動するのを単位化するという科目もある。それとうまく結びつけ、大学生にとっても単位になり、地域にとってもためになるよう、中部大学の学生もぜひ活用してほしい。

■委員

恵那未来キャンパスについて。高校卒業後に市外の学校へ進学し、その後恵那市に戻ってくる人が少ないのでいろいろ取組をしていると思う。くらしビジネスサポートセンターの有給インターンシップ制度を利用した学生が2名来てくれた。出身は中津川市だった。大学との協定を結んでいるのは大事なことだが、地元出身者への直接のアプローチもできると良い。地元出身ではない人が入るのも良いことだが。未来キャンパスのICT、プログラミング講座などの取組が、若者が恵那に戻ってくることと繋がるといい。

■委員

たべる推進事業について。資料7の15ページ。地域の店舗の商品をサービスエリアなどいろいろなところで売ることについて。教育委員として教育長訪問で学校に行くが、そこで地元のお菓子を出していただくが、初めて見るものも多く、恵那に住んでいても知らないものがたくさんあると感じる。いろいろな店に声をかけて、出店できることを知らせるといい。固定のお店だけでなく、いろいろな店舗が月替わりでサービスエリアに出したりして、恵那のお菓子を知ってもらいたい。

20ページ、歌舞伎小屋機能向上事業について。私の娘も保存会に入っている。昨日も練習を見たが、小学生も中学生も高校生も参加していた。子どもたちの何かを習得しようとする成長がすごく驚く。小学校に歌舞伎クラブがあるところだけでなく、歌舞伎を体験できない小学校にも声をかけては体験してもらってはどうか。例えば、宮盛座で花道を歩いてライトを当てていただくだけでもいい。セットも作ってある。体験すれば興味が持てる。三郷だけでなくほかの地域からも入ると保存会の力になる。

■議長

地域商品の露出をもっと高めるとのこと、要望として提案に努めていただきたい。歌舞伎は、触れる機会をもっと増やした方がいいという意見。

■教育委員会事務局長

三郷保存会だけ 19 歳以下の加入者がいる状態。恵南地域は特に、昔から各地域で歌舞伎をやっており、学校が終わってから各地域の発表会に出ていたこともある。そういうことも復活できるといい。学校の中でもそういう時間を持ちたいとは思っている。

■委員

たべる推進事業のふうど認証について。私は恵那市ブランドの認定に携わっている。KPI ではふうど認証の件数が達成できているが、恵那ブランドの認定は、令和 6～7 年度で 30 件ほどを認定しているが、商品が認定されただけで、認定を活用した PR ができていない。市民にもブランド認定があることが浸透していない。交付金の事業期間は終了するが、活用の部分まで応援してほしい。

■商工観光部長

PR が重要な課題だと考えている。認定された事業者の声を聞きながらのぼりやシールを作っている。情報発信、市民への理解促進が重要。恵那市を PR する素材の一つとして活用し、恵那市のいいものを広めていきたい。今後も、関係者の声を聞きながら進めたい。

■農林部長

ふうど認証も、認定しても次の展開がうまくいっていない部分はある。今年度秋には、スタンプラリーを開催する。これにより市民や外から来る人にも知っていただき認証店を使っていただきたい。それにより市内の農産物も使っていただけるよう進めている。

■議長

他にあるか。

地方創生交付金は、事務局から効果の検証についての評価を求められている。市の事務局からは事業効果はあった、継続していきたいということだが、この委員会として、効果があったと評価して良いか。

[「異議なし」の声あり]

■議長

この委員会の議論の結果として、評価欄に「効果があった」とする。
全体を通して、他に何かあるか。

■委員

二児の母として、子どもたちが地域とかかわる授業が昔よりすごく増えている。いろいろ考えて実践されており感謝している。女性の流出抑制なども、効果として現れるのには10年、20年とかかるかもしれないが、小中学生の愛郷心は昔より育っていると感じている。今後も私個人としても頑張りたいが、引き続きこのようにやっていってほしい。

■委員

資料2、スポーツ施設の利用者数の評価がE。先日、まきがねのトレーニングジムを利用できるようになる講習会を受けた。そのとき、器具の説明を受け、1台170万円する機械を2台入れたと説明を受けた。マッサージ器も商業施設では300円するものを100円で使えるとのこと。せっかく良いものが無料または安価で使えるので、もっと市民に呼び掛けるといい。民間のスポーツジムも増えているが、手軽に行けて会費もいらないジムもあることをアピールすると体を動かす人も増えると思う。

農業について。担い手不足が深刻だと感じている。私の子どもに田植えで耕運機を運転させてみたら真剣にやってくれた。小学生や中学生の興味のある子に農業の体験をしてみたら面白がってくれるのではと思った。

■教育委員会事務局長

公共のスポーツ施設について、もっとピーアールできるといいと思っている。

■農林部長

小中学生に農業体験をしていただくという貴重な意見をいただいた。市内でも一部地域では農業体験イベントをやっているが、限定的である。担い手を育てることは大事なので、ぜひ検討したい。

■委員

WRCについては豊田市が評価するという話が冒頭であった。資料9の7ページを見るとWRCの事業予算と交付金がほかの事業と比べて大きい。恵那市ではWRCの経済効果、実際どのような効果があるのか。今後WRCはどのような動きになるのか。

■まちづくり企画部長

事業費が大きいですが、収益と企業からの支援金により、実質、市の税負担はない。

今年度は、昨年度と比べても来場者数、観戦者数が非常に多かった。観客数が全体で53万5千人で、恵那市の来場者数が2万5千人。昨年は2万2600人。経済波及効果は、まだ算定中である。

■議長

今後の展望は。

■まちづくり企画部長

今後も、モータースポーツを使ったまちの魅力向上として、WRC は継続したい。主催者の都合もあるので、来年も確実に恵那市で開催されるという約束はできないが、今のところ来年はできるという予定は聞いている。日にちはもうすぐ発表される。分かり次第、市のホームページ等でも常に情報発信をしていく。

7. その他

8. 閉会

■進行

長時間ありがとうございました。貴重な意見を賜った。

今回は来年3月頃を予定している。改めて案内する。これで閉会する。

〔 閉 会 〕